

## 第3回市民協働推進委員会（H29.10.31）でのご意見や議論の振り返り

### 【市民協働推進計画の進捗管理と検証・評価方法の検討】

#### ◇事務局試案のサンプルシートについて

#### ● 事務局試案では、アウトプットがD o、アウトカムがC h e c kに区分されているが？

- ⇒ ①結論としては、D o、C h e c kどちらにおいてもよい。（アウトカムが見えることが大事）
- ②市民に見ていただくという観点で、「このように取組が進んでいるんだ」ということと、何よりも「改善支援」が大切

#### ● D oのところ、結果だけ書かれているが、どのような仕組みで行われたかが見えないが？

- ⇒ この表（限られたスペース）で、どこまで盛り込むか。
- ⇒ 実施体制（誰がやっているか、委託・協働・直営）や予算はシートに盛り込。チェック（評価）をする時には、報告書など付随した資料を用意する。
- ⇒ 「これ、いいよね」と「ポジティブに評価する欄」があってもよい。すると、このポイントをさらに伸ばしていくための改善提案が右にできる。＝ 良いところを褒めて伸ばす表現
- ⇒ 「バリュー」みたいなものが副次的な効果を包括する形であると、改善の部分が見えやすい。

#### ⇒ シートの記載者

- ① 実施者：自己評価として成果（アウトカム）くらいまでを書く。
- ② 評価者：実施者の自己評価をふまえて、市民協働推進委員会メンバー（第三者）がコメントする。★実施者に刃を向けるのではなく、改善支援につながる評価を行う。

#### ● 地域担当職員は、人数ではなく、「各個人の目標に対してどこまでできたか」という制度になっているか？

- ⇒ 14 地区それぞれで状況が異なり、各地域担当職員は、それに合わせた支援をしている。現状は、具体的な目標は設定していない。（事務局）
- ⇒ このような「アウトカム」を重視する議論は大事。  
これまでの政策は、アウトカムを意識せずに進んできているので、アンケートのとり方もアウトカムに迫るようにはなっていない。
- ⇒ アンケートのあり方の議論も必要
  - ・アンケートで何を聞かなければならないか？
  - ・アウトカムをどう設定するか？ どう測るか？

## 委員の皆さんからの意見【ご意見シート】

### ◇表の組み立てと追加項目

- ①「活動の価値（VALUE）」の欄を設け、状況と副次的な成果を鑑みて、再度評価と活動の価値を確認できるとよい。  
⇒ 「活動の価値」の項目を追加しました。
- ②表組の見やすさへの提案として、
  - ②-1「目標（指標）」の書き方（【】でアウトプット・アウトカムを縦に並べる）と結果・成果の書き方を合わせたらどうか。  
⇒ 「目標」に対して「結果・成果」を並べて、わかりやすくしました。
  - ②-2「副次的効果（＝これは、結果/成果だけでは測れない価値の側面と解釈）」と「課題（＝これは、改善への働きかけを要する側面と解釈）」の欄も“数字に見えないこういう成果もあるが、課題も見えている”という次年度以降に向けた総括の項目として共通性があるように思うので、縦一列に並べてもよい。  
⇒ 「活動の価値」欄も含めて整理しました。
  - ②-3 項目が整理されたら「DO（実行）」の欄が確保できる、「DO」の項目に「事業形態/事業期間（経年か単年か等）/実施主体/（必要であれば）予算」などを一覧化してはどうか。  
⇒ 取組の目的と内容の下段に追加記載しました。
- ③成果（アウトカム）、結果（アウトプット）は、やはり評価ではなく、実行（DO）の結果であり、評価（Check）欄は、DOに対する「プラス面（成果）、マイナス面（課題）」を書くといい。  
⇒ 成果と結果をDOの欄とし、「活動の価値」と「課題」の欄を整理しました。
- ④一番右の欄「今後の展開（改善）」を、「今後の展開（改善・維持）」と「維持」を加えるとよい。  
活動が長期化した際のマンネリ化を防ぎ、変わらない活動でも、「意義・意味」があることを再確認し、次年度へのモチベーションへとつながりやすくなる。  
⇒ 「維持」を追加しました。
- ⑤評価欄の達成度を☆で評価されてもわからない。何が評価されて、何が評価できていないのか中身が評価欄に書かれているほうがよい。  
⇒ 「活動の価値」、「課題」で、具体的な中身が記載されるようにしました。
- ⑥A3横長の様式が、何となく読みづらい。  
⇒ 現行どおりで進めさせていただきました。

### ◇全体感

- 「誰がどんな目的でこの評価（PDCA）を使うのか」を考えて作る方がよい。  
⇒ それを考えると、言葉の表現が変わってくる。
  - ・実際に使う人が、「使いやすいもの」を作る
  - ・「誰のために」、「その人たちが、これをする事で何が得られるのか」をきちんと考え伝えることが大事